

「ファッション色彩」再改訂版刊行にあたって

東商カラーコーディネーター検定試験の1級第1分野「ファッション色彩」の改訂版テキストの初版が刊行されたのは2003年7月である。以来、11年が過ぎようとしている。いうまでもなくファッションは常に新規性を追求し、トップ・ファッションからボリューム・ファッションへと伝播する性格をもっている。そこでは「新しい」と「古い」ということは常に相関関係にあり、「新しいものは古くなり」、逆に「古いものが新しくなる」循環性も秘めている。本テキストの改訂は、以上のようなファッションの特殊性を踏まえて、主に以下の3つの視点で行われている。

- (1) 改訂版以後の10年強に及ぶファッション事象の変化に対応すること。
- (2) 新2級テキストの掲載内容との整合性、連続性をつけること。
- (3) ファッション構造の変化に伴う古い事象を抹消し、新しい事象を加味すること。

上記(1)に関してはコスチュームと色彩文化の項目。近代日本の化粧の色彩史、また流行色の変遷などの項目で、2000年以降の10年間のファッション、化粧史、流行色などの項目を中心に、それらの事象の変化や推移を加筆し、補完した。

また(2)については、2012年2月に刊行された2級新テキストには、現行の1級第1分野のテキストに記載されている「染料」及び「顔料」の項目、さらに「流行論」など同様の内容が掲載されている。また従来の2級テキストの中核をなしていた「色彩調和論」は削除されている。そこで、本改訂では2級テキストと1級テキストとの整合性・連続性を考慮し、「染料」及び「顔料」の項目、「流行論」についての重複の記述を避け、いっそう詳しく、内容の全面的な刷新を行った。また「色彩調和論」及び「自動配色」については、カラーコーディネーター検定の根幹をなす内容であるので、本1級テキストに収録し、テキスト全体との整合性を図った。

また(3)については、ファッション構造の変化に基づく産業界の変化、消滅、また新規誕生などを中心に、その事象について加筆、補完を行った。

本来、改訂版は全面的な見直しが望ましい。ただ初版が刊行されてまだ10年である。だが、時間に伴う新規性を旨とするファッション界においては、大きな変革の訪れた10年でもあった。そこで今回は、上記の観点から、その10年間にしぼり、部分改正を行った。読者の皆さまのご理解をいただければ幸いである。

東商カラーコーディネーター検定試験 1級第1分野公式テキスト編集委員会
委員長 城 一夫